

令和6年11月28日

出張報告書

栗山町議会議長

鵜川和彦様

栗山町議会議員 端

師 孝



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和6年11月17日～20日
- 2 出張先 滋賀県
- 3 調査事項 令和6年度 市町村議会議員研修「3日間コース」
「第2回 新人議員のための地方自治の基本」
- 4 関係書類 別紙のとおり



令和6年度

市町村議会議員研修[3日間コース] 「第2回 新人議員のための 地方自治の基本」

地域住民の期待と信頼に応えるためには、社会情勢の変化や地域の諸課題、住民ニーズの把握に加え、地方自治に関連する諸制度について精通していることが重要です。

この研修では、新人議員(研修開始日時点で1期目の議員)を対象として、地方議員が理解しておくべき地方自治に関する諸制度や基本的事項を講義や演習を通じて学びます。

また、全国の市区町村議会議員が集い、地方自治に関する様々なテーマについて情報交換や意見交換を行います。

※本研修は、全国市議会議長会及び全国町村議会議長会との共催で実施します。

開催要領

日 程

令和6年11月18日(月)～11月20日(水)(3日間)

場 所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対 象

市区町村議会の新人議員(1期目)の皆様

3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。
過去に受講された方もお申込みいただけますが、より多くの方に受講していただくため、申込人数によっては、お断りをする場合がありますので、予めご了承ください。

※議員通算4年未満の方が対象です。

募集人数

60人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿 泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経 費

11,000円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食2回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。
なお、事前準備・事前学習及び最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和6年10月3日(木)まで

申込方法

議会事務局を通じて、JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申込みください。

受講決定

受講の可否については、開講日の約1か月前を目途に通知をお送りします。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

日 時	令和 6 年 11 月 18 日 11:00 ~ 17:15 令和 6 年 11 月 19 日 9:00 ~ 18:00 令和 6 年 11 月 20 日 9:25 ~ 12:15
視 察 先	公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎二丁目13-1
調査事項	令和6年度 市町村議会議員研修〔3日間コース〕 「第2回 新人議員のための地方自治の基本」
対 応 者	なし
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	1. 目的 地域住民の期待と信頼に応えるためには、社会情勢の変化や地域の諸課題、住民ニーズの把握に加え、地方自治に関連する諸制度について精通していることが重要です。この研修で、新人議員として地方議員が理解しておくべき地方自治に関する諸制度や基本的事項を講義や演習を通じて学ぶことを目的とする。 2. 内容 第1日 11月18日(月) 11:00~13:00 受付・昼食・開講オリエンテーション・入寮オリエンテーション 全国市町村国際文化研究所(JIAM)学長 萩澤滋氏より挨拶 研修担当者 深尾氏、杉田氏よりオリエンテーション説明 ※本研修会には、全国の市町村90自治体から120人の参加があった。そのうち市議会議員54人、町議会議員51人、村議会議員15人。そのうち男性76人、女性44人、男女比率2:1で3人に一人が女性 13:00~16:00 講義 地方自治制度の基本 同志社大学政策学部 大学院総合政策科学研究科 教授 野田 遊氏 ・講義内容 1. 地方分権 2. 財政 3. 行財政改革 4. 市町村合併 5. 広域連携 6. 行政編成 7. 自治体議会 8. 自治体組織 9. ガバナンス 10. 政策 11. 広報 16:15~17:15 講義 元議長が語る「住民から近くて遠い地方議会から近くて近い地方議会」への一考察 深津市議会元議長 江上 隆行氏

	・講義内容 1. 議員の役割とは何か 2. なぜ、地方自治が民主主義の学校といわれるのか 3. 議会と行政は「車の両輪」であろうか 4. 議委員は全体の奉仕者としての言動を 5. 地方自治法に基づく「意見書」の提出を 6. 議会が議決した意思を尊重しよう 7. 「一般質問」とは何か 8. 議会機能を使いこなそう 9. 議員力延いては議会力の強化を図るための一方法 10. 「政務活動費を使って調査研究したところによると」の発言のススメ 11. 「質問」と「質疑」のルールを守ろう 12. 「骨太の方針」から始まる国の動きをキャッチしよう 13. 「予算」「決算」寮審査で押さえておきたいポイント 14. 自治体の財政を理解できる議員をめざそう 15. 定例会開会前に法令などの精読のススメ 16. 議員に執行機関の答弁者を指名する権限はあるか 17. 議会の「調査権」とは何か 18. 議員に「資料要求権」はあるか 19. 議会で執行機関の職員を讃えよう 20. 議員ほどやり甲斐のある「志」事はない 17:45～18:45 交流会 第2日 11月19日(火) 9:00～12:30 講義 地方議会と自治体財政 武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎氏 ・講義内容 1. 地方財政制度のポイント 2. 自治体の予算と決算 13:30～15:00 講義 条例と政策の審査・立案 元衆議院法制局参事 吉田 利宏氏 ・講義内容 1. なぜ、議会からの政策立案が必要か 2. 政策立案のスキルアップ 3. 条例の典型的な規定 15:15～18:00 演習 条例演習(意見交換・発表・まとめ) 元衆議院法制局参事 吉田 利宏氏 ・講義内容 1. 班分け後自己紹介 2. 条文演習① 3. 条文演習② 4. 解決策発案演習 5. 課題発表と投票 6. まとめ
--	--

第3日 11月20日(水)

9:25~12:00

講義 これからの地方議員に期待されていること

駒澤大学 名誉教授 大山 礼子氏

・講義内容

その1 多様性ある議会へ その2 信頼される議員の条件

12:00~12:15

閉講オリエンテーション・事務連絡・集合写真撮影

4. 感想

滋賀県大津市唐崎にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)で1期目の全国の市町村の新人議員を対象に、3日間研修会を受講した。初日の萩澤学長からの挨拶で「本研修を受けたあとに単に聞いてわかったとそこで終わりにするのでなく、全国から120名の新人議員が集まって同じ研修に臨んでいるので自主的な参画をすることで成果があがるように努めてほしい、また広く地方自治について制度やその仕組みを確認する機会にしてほしい」とのお話を受けて、漠然と「地方自治の基本を学ぶ」という目的から、あらためて本研修の目標を(1)議員になってからよく見る難しく感じている行政の専門用語(法律用語)や財政の仕組みについて学び地方議員の役割の理解を深める、(2)新人議員120人と名刺交換に努めて情報交換を行う。の2点とした。

①地方自治制度の基本

日本における地方自治の特徴や財政の現状を確認

・地方自治とは、住民が政策を形成する住民自治と市町村が政策を形成する団体自治の2つ合わせてなるもの

・日本は単一制国家で、地方自治制度の類型はフランスやドイツのように大陸型集権融合型に分類される

市町村の行財政改革についてを確認

・北海道の財政力指数平均は、全国ととりわけ関東や一部の県に比べて低い水準である

・持続可能性のための選択肢は、削減、合併、連携の3つ

・北海道と市町村の関係から、広域的サービス等は北海道に移管を考慮

自治体議会とはを確認

・議会の代表機能には、政策立案機能と監視機能とある。

・政策の過程では、問題をとり間違えたり、どうやって評価しているか適切なのか

	広報の留意点について確認 ・留意点に配慮して、伝わる広報を行う 1 期目 2 年目になる現在はまだ個の議員としての監視機能が十分に果たされていないと感じている。よりスキルアップし、議員としてステップアップしたい。学んだ中の合併については、栗山町とその周辺との合併の可能性を考えた際に、スケールメリットの魅力を強く感じたが、研究報告にある合併効果のデメリットについてあらためて考えさせられた。一方の視点だけでなく、他の視点がないか求めることが大事だと感じた。今後も栗山町では議論されるだろう市町村合併や広域連携について今後も研究していきたいと感じた。また、議会の広報においては、そもそも私が漠然と思っている性質とは異なるものであって、こちらも広報の留意点を取り入れて広報広聴常任委員会に役立てていきたい。 ②住民から近くて遠い地方議会から近くて近い地方議会へ 福岡県福津市議会の元議長としてテーマの一考察の教えをいただいた 私にとってはところどころ難しい話であった。その中で議員活動で、江上氏が一般質問するピラを地道にポスティングして議会傍聴者を40人集めた話は刺激となった。また、国の動きをキャッチすることは、地方自治体や議員ととても関係があるのでチェックする重要性があるとアドバイスされた。議員個人としての心構えや姿勢のことが多かった。取り組み方を参考にして、今後の議員活動に活かしたい ③地方議会と自治体財政 地方財政制度のポイント ・地方公共団体と民間企業の会計の比較、もともとの原理の違い 自治体は予算がすべてで決算は確認のみ、企業は決算が重要で予算は目安 ・自治体には出納整理期間があるため、企業より遅い。そのため決算は9月になるのはこれが理由となる ・財政における専門用語の意味と考え方 自治体の予算と決算 ・審査のやり方は、それぞれの議会ごとに文化の違いがある ・条例の提案では、予算や財政負担の伴うものはできない。修正は主に削るのみである
--	--

とてもとっつきにくい専門用語や行政制度のポイントについては、理解が追いつかず難しいと思った。質疑と質問の違いを頭に入れ、毎年度ある予算と決算についてしっかり監視機能が果たせるよう議員活動に活かしたい。

④条例と政策の審査・立案

- ・執行部の政策の特徴を見極める
- ・首長の任期数、政策の得意不得意の傾向から監視する
- ・「条例を作れる議会」は価値がある、行政の信用を得る
- ・政策立案のためのスキルアップは議会ひいては議員力につながる。住民からの「〇〇してほしい」という声に対して、「どうしてほしいか」と同時に「何が問題なのか」を探る調査を行う。住民の声から政策立案を考える

条例演習では、6人の班分けを行い条文演習に取り組んだ。秋田県湯沢市、群馬県館林市、東京都小笠原村、新潟県津南町、香川県高松市の議員と、まずは自己紹介と自治体のおいしいものの紹介を行った。今まで条例に関して特に演習を行ってこなかったので大変難しかった。グループディスカッションでは他の議員と意見を出し合い、グループとしてのひとつの解を求めることも難しかったが有意義な時間となった。短時間ながら、それぞれのグループで課題の解答に個性が出ており参考になった。

空気感、ファシリテーション能力、コミュニケーションのとり方は、今後身に着けて議員活動に活かしたい

⑤これからの地方議員に期待されていること

多様な議会と信頼される議員の条件

- ・議会不信となり手不足 ますます重要になる議会の役割
議会はそもそも多様な住民を代表しているのか
信頼回復はなり手不足の解消にもつながる
 - ・職業別の偏りと男性女性の比率は、国会も地方議会も大差ない
 - ・多様な議員の参画によって、行政や議会や住民の信頼が増す
 - ・多様な議員の参画を促進のために、立候補者を育成支援し、選挙制度を見直す
 - ・議員の報酬及び議員活動経費の透明化をする
 - ・ハラスメントの防止に努める
- 議会行政内窓口では不適切。第三者機関の相談窓口の設置から取り組む
- ・政治倫理条例の制定し、議会外での不適切な行為の防止をする

	・デジタルデモクラシー（ＤＣ）活用に取り組む インターネットなどを用いて、市民が政治や行政に直接的に関わる こと 政治に関心が薄い層にＤＣにより政治的主張を行う 地方議会と住民の関係の再構築をし、信頼を高めることは急務 栗山町議会は現在１１人の定数に対して女性議員は１人である ので、多様性確保のひとつとして女性議員の割合を増やすことであ ると参考になった。多様な議員が出れるよう、全国の先進事例につ いて議論し、現職議員と考えを共有して環境を整えたい。議会改革 推進会議にて取り入れて、多様性のある議会へつなげたいと感じま した。また、話の中では選挙制度の改革も論点となるお話を聞いた ことは刺激となった。例えば「制限連記制」は、住民が選挙に関心 を寄せる要因の一つになることが期待できるのではないかと印象 に残った。まだ知らぬ選挙制度の改革の可能性を探し、研究してい きたい。 まとめの所感としては、まずもって本研修会が宿泊場所と研修会 場を兼ねているために食事休憩や移動の時間をまるまる講義の準 備や他議員との交流に充てることができるのが魅力と感じて、募集 定員６０名のところ毎度それ以上の募集人数が集まる理由がわか った。合宿に近い環境下で、集中して学び、目標にした２点につ いてより感じる機会となった。今後も積極的にＪＩＡＭの研修を議員 活動に取り入れ、同僚議員へもこの研修を勧めたいと感じた。 課題では、情報量が多い研修会では、終始メモをとることに専念 してしまうが、あとで見直しがしにくいノートづくりになっている 現状になっている点。直に講師や議員と交流するでは、名刺交換は １２０人中４０名となったが、途中で進んで交流することに臆して しまい、後半になるにつれ積極性に欠けてしまった点。これらによ って、研修はまだ効果的になる余地があったと感じる。研修後は自 身の身のためになった感が強く残った。今後、栗山町議会にて成果 を住民へ見せることができるように、学んだ知識を議会活動に活か していきたい。また、住民の皆様の期待に応えられるよう励むことを 心がけたい
--	--